2024年11月3日(日)
中国新聞SELECT掲載

JICAだより

カンボジア
(2022年から派遣)
北風亜矢子さん(43)
プノンペン在住
(広島市西区出身)

笑顔広がれ 音楽の授業

私は、2022年2月からカンボジアのクラチェ州のメコン川沿いにある夕日がきれいな町の小学校で、JICA海外協力隊として2年間活動した。主に図画工作と音楽の授業を担い、その小学校の要請で鍵盤ハーモニカの指導もした。カンボジアで活動しているNPO法人「JHP・学校をつくる会」から鍵盤ハーモニカを寄贈してもらい、4、5年生40人に授業をした。

子どもにとって初めて経験する音楽の授業。鍵盤ハーモニカが弾けるようになるまで一生懸命練習している姿や弾けるようになった時のうれしそうな笑顔、式典で演奏する時の誇らしそうな顔が、今でもきのうのことのように思い出せる。

図画工作の授業の様子。5年生が自分の顔を描いている

子どもの楽しそうな姿が言葉のうまく通じない中での活動の原動力となった。一方、全員に授業ができないもどかしさも感じた。授業を受けたいと言う子どももいたが、楽器がないため一部の子どもにしか教えることができなかった。

活動が終わる時に「先生が来てくれたから鍵盤ハーモニカが弾けるようになってうれしい。ありがとう」と言われた。うれしい気持ちと同時に全ての子どもが同じように感じてほしい、私が来なくても音楽の授業が受けられるようになってほしい、そう強く感じた。

私は24年4月から協力隊活動中に鍵盤ハーモニカを寄贈してもらった「つくる会」で働いている。そしてカンボジアで芸術教育支援に関わる機会も得て、現在はJICA草の根技術協力事業を活用し、「カンボジア国初等教育芸術科教育普及体制構築事業」のプロジェクトに携わっている。

カンボジアの全ての子どもたちが音楽の授業を受けることができ、「音楽が楽しい」と、あの時私に向けられた笑顔が広がっていくことを願っている。